

徳島大学研究クラスター講演会（共催）

- ◆選定クラスター 「微細結晶・重合体に起因する自然炎症が引き起こす健康被害に対するリスク評価法および治療薬の開発」（代表：齊藤達哉）
- ◆重点クラスター 「難病の克服を目指した免疫学研究の拠点形成」（代表：安友康二）

■日時：平成30年 **1月15日**(月)17:00～18:30

■場所：藤井節郎記念ホール

細胞死による核内サイトカイン、 細胞外核酸の免疫学的意義

石井 健 博士

医薬基盤・健康・栄養研究所 ワクチンアジュバント研究センター センター長
アジュバント開発プロジェクト プロジェクトリーダー
モックアップワクチンプロジェクト プロジェクトリーダー
大阪大学 免疫学フロンティア研究センター ワクチン学 特任教授

[関連する主要論文]

J. Immunol in press (2018)

J. Immunol 198 : 4707 (2017)

Immunity 45 : 1299 (2016)

Proc Natl Acad Sci U S A 111 : 3086 (2014)

Nat Rev Immunol 12 : 479 (2012)

●本研究クラスターが開催する講演会では、微粒子による健康被害や免疫難病に関する解析を進めている研究者に最新の成果をお話いただきます。講師の石井博士は、臨床への応用を視野に入れた質の高い橋渡し研究（トランスレーショナルリサーチ）を行っている研究者であり、特に自然免疫賦活化を基盤とするワクチンアジュバントの開発において、素晴らしい研究業績をあげています。また、近年は微粒子による免疫毒性についても、大きな発見をなされています。本講演会では、これらの研究成果について、「細胞死に応じて放出される核内サイトカイン・核酸の免疫学的意義」の観点からご紹介いただきます。免疫学・毒性学研究に携わる方々、ワクチンを用いる治療法に興味がある方々にとって、最先端の研究に触れる貴重な機会になると存じますので、ぜひご来聴ください。

●本講演会は、大学院特別講義を兼ねています。大学院生の皆様も、ぜひご来聴ください。

連絡先

先端酵素学研究所 炎症生物学分野
齊藤 達哉（内線2540）
saitohtatsuya@tokushima-u.ac.jp